

学会参加と資料収集の報告

愛知大学国際中国研究センター(ICCS)

リンチン

2009 年度奨学生



オラーンホト市の中心的な街道―「興安大街」



オラーンホト市中心部に新築された内モンゴル民族解放記念館

1.学会参加

私は、渥美財団国際交流奨学財団「博士号取得者の海外学会派遣プログラム」助成を得て、「オラーンホト市革命史シンポジウム」(オラーンホト市、2012年5月25～27)に参加し「オラーンホト市における『五反』運動と民族問題の提起」というテーマで発表した。

中国で1963年から始まった社会主義教育運動は、都市においては「汚職、浪費、窃盗、投機闇取引、官僚主義に反対する」(略称「五反」)ことを主要な内容として行われた。オラーンホト市での「五反」運動の中で民族問題が提起されたのは、同市党委によって出された「民族活動を一層強化することに関する意見」においてである。同「意見」は、まず、『三面紅旗』政策のもとで各民族の社会主義的認識が向上し、各民族間の団結、協力、共同発展の社会主義民族関係が形成され、発展しつつある。民族的特徴および風俗習慣が尊重され、考慮

された。各民族の文化教育の新たな発展がみられ、各民族の言語・文字の使用と宗教・信仰が重視された。少数民族幹部の育成や抜擢の活動が強化された」と民族活動を評価した。

その一方でオラーンホト市の民族活動に存在する次のような問題が指摘された。(a)少数民族に奉仕する手工業などが建設されていないこと、(b)少数民族の民族言語・文字も役割を十分に果たしていないこと、(c)民族文化遺産の発掘とモンゴル人の芸術の継承の問題も解決されていないこと。諸問題が存在する原因としては、民族政策と宗教政策の宣伝・教育と学習、研究が遅れていることと、少数民族の民族的特徴や地域的特徴に対する認識不足、重視不足が挙げられた。

次に、オラーンホト市党委からは、社会主義教育とそのほかの政治運動とを結合して、各民族の大衆に対し愛国主義、国際主義と社会主義の教育を行い、ブルジョア階

級の民族主義傾向に反対し、修正主義の影響に断固反対し、各民族間の団結、協力を発展させ、祖国の統一を強化すること、定期的に労働職員・幹部を組織して民族政策の学習と座談会を行い、民族政策の貫徹、実施状況の検査を行うことを呼びかけた。

幹部に対する教育の内容は、漢人幹部に対しては (a) 民族間の平等、民族間の団結、(b) 民族的特徴、地域的特徴に配慮すること、(c) 民族政策を堅持することなどとされた。また、モンゴル人幹部とほかの少数民族幹部に対しては (a) 祖国は1つ—中華人民共和国であること、(b) 社会主義の道を堅持すること、(c) 中国共産党の指導を堅持し、永遠に中国共産党に従うことなどとされた。

とくに、少数民族幹部の重要性については、「一定の比率で少数民族幹部がいてこそ、少数民族大衆と緊密な連携ができ、少数民族大衆の要求と意見を反映することができ、少数民族大衆の信用を得ることができる。そのうえで、民族問題の解決と党や政府の指導下の民族間の団結ができ、民族活動が前進することができる。したがって、必ず少数民族幹部の育成や抜擢に力を入れなければならない」と強調された

言語や文字の使用状況については「モンゴル語は内モンゴル自治区各級国家機関の政権行使の道具であり、モンゴル人大衆交流の道具でもあり、重要な民族形式である。モンゴル語を発展させることは民族活動の長期的な任務であり、民族政策の方針である」ということが示された。そのうえで、

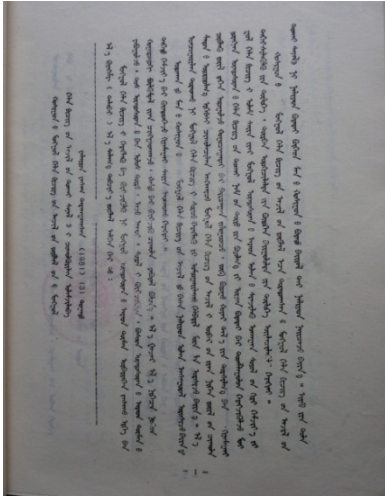
(a) 各機関は行政執行におけるモンゴル語の役割の宣伝を強化しなければならないこと、(b) 市人民政府委員会にはモンゴル語使用の専門職の職員を配置すべきこと、(c) 市直属機関による全市民向けの指示、命令、条例、通告、規定などは必ずモ・漢2種の文字を使用しなければならないことが指摘された。

このように、オラーンホト市における「四清運動」においては民族問題が提起されたものの、民族問題に関する批判や攻撃はみられなかった。モンゴル人が集中的に居住する牧畜業地域と半農半牧地域では、状況はこれとは対照的であった。

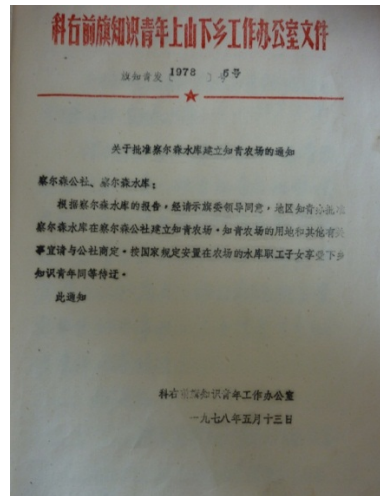
2.資料収集

シンポジウムののちの5月28日から6月11日までに期間では、オラーンホト市文書館、ホルチン右翼前旗文書館、ジャライド旗文書館などの機関において、関係史料の調査収集を行う。それとともに、オラーンホト市、ホルチン右翼前旗、ジャライド旗在住の数人の関係者に対するインタビュー調査を行う。とくに、これらの地域におけるモンゴル語使用問題、知識青年「上山下郷」運動に関する重要な資料を入手することができた。

渥美財団国際交流奨学財団「博士号取得者の海外学会派遣プログラム」助成のおかげで、学会参加のみならず、研究に不可欠な貴重な資料も得られました。この場を借りて、理事長をはじめとして関係者皆様に深く御礼を申し上げます。



モンゴル語使用問題に関する文書史料
(ジャライド旗文書館所蔵)



知識青年「上山下郷」運動資料（ホルチン右翼前旗文書館所蔵）



新しく修造された「成吉思汗廟公園」



日本支配期の 1940 年代にモンゴル人の民間資金
で建設された「成吉思汗廟」